南砺市

南砺市病院事業　将来ビジョン

（改正）

南砺市

南砺市病院事業　将来ビジョン

【目次】

1　将来ビジョン策定の背景と目的【一部改正】　・・・Ｐ．　２

2　医療需要の推計と必要病床数　・・・Ｐ．　８

3　再編モデルを用いた運営体制の検証　・・・Ｐ．１２

4　経営アドバイザーによる助言　・・・Ｐ．１９

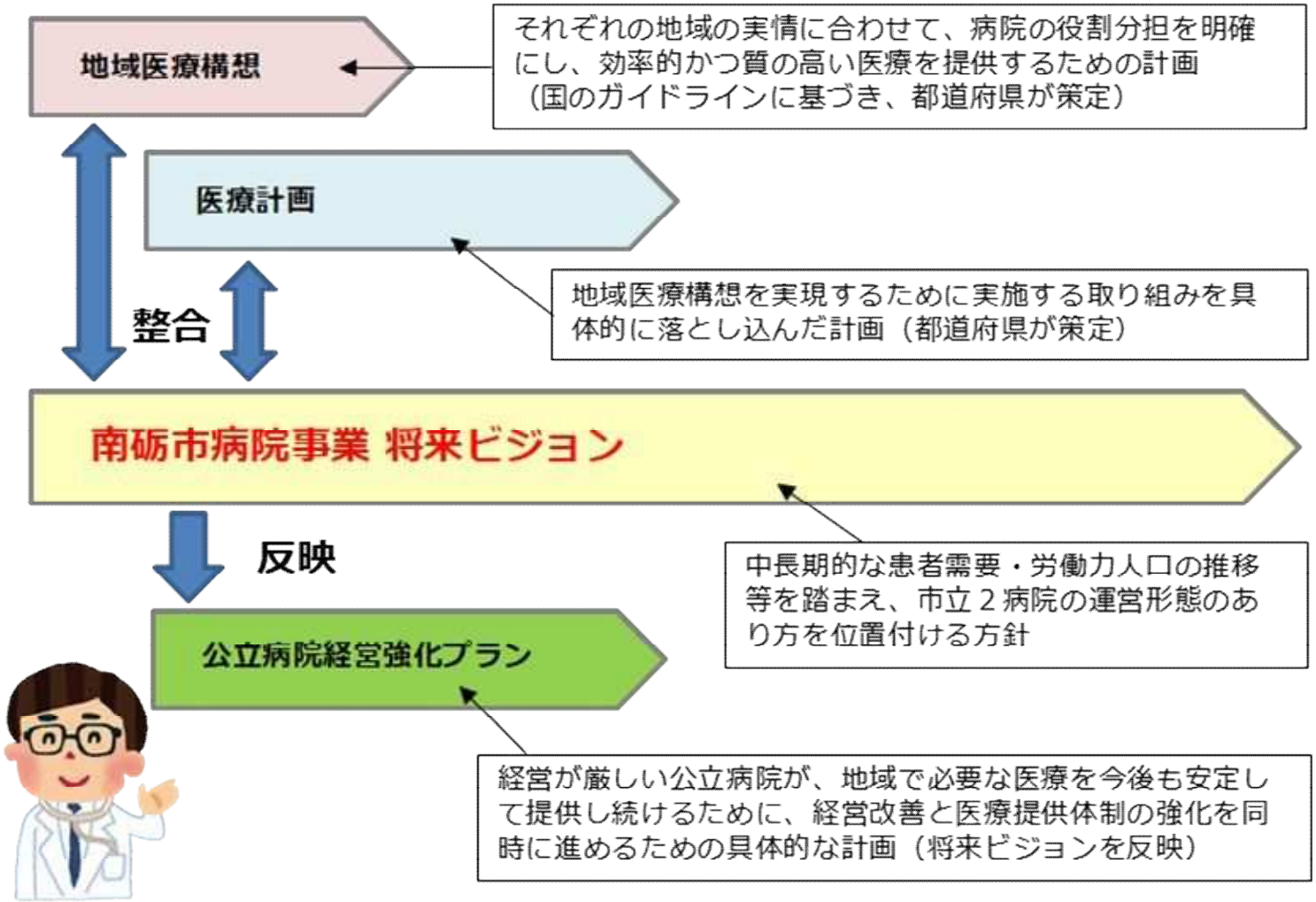
5　市立２病院の目指すべき方向性　・・・Ｐ．２２

6　南砺市病院事業将来ビジョンにおける指針【全部改正】　・・・Ｐ．２７

１　将来ビジョン策定の背景と目的

（一部改正）

南砺市病院事業 将来ビジョンの位置づけ



６　南砺市病院事業将来ビジョンにおける指針

（全部改正）

南砺市病院事業将来ビジョンにおける指針の改正について

労働力人口の減少に伴う医療従事者の不足やコロナ禍後の医療需要の変化等による病院事業経営の悪化は、本ビジョン策定時の想定をはるかに上回り、今や病院事業の存続に関わる喫緊の課題となっています。

医療従事者の確保、増加する高齢者救急への対応、へき地医療の存続など、様々な課題が山積する中で、将来にわたって地域医療を提供し続けるためには、南砺市立2病院の再編によって、医療資源の最適化を図ることが必要です。

市議会「医療のあり方検討特別委員会」での約１年半にわたる議論の結果を踏まえ、南砺市病院事業将来ビジョンにおける指針を次のとおり改正します。

南砺市病院事業将来ビジョンにおける指針

第１　市立２病院の医療機能のあり方

第２　病院事業のあり方

第１　市立２病院の医療機能のあり方

１　基本的事項

（１）持続可能な病院運営の実現

南砺市立２病院は、機能分化により、医療資源の最適化と一体的な運営を行い、医療従事者の確保、病院経営の健全化、医療の安全・質の向上等を通じて、持続可能な病院運営を実現します。

なお、医療を取り巻く環境変化に応じ、最適な機能配置について、継続的に検討していきます。

（２）二次医療圏で必要な医療を受けられる医療体制の構築

基幹病院をはじめとする関連病院との機能連携・機能分化により、地域に必要とされる主要な医療が二次医療圏で受け続けられる医療体制を目指します。

２　医療機能

（１）外来機能

市立２病院の外来機能については、市民の生活に密着した医療機能であることから、両病院それぞれにおいて維持することを基本とします。一方で、医師の確保が困難な場合など、やむを得ない事情が生じた際は、その診療科に限り、より多様な外来機能を有する南砺市民病院への集約を図ります。

地域医療の水準が大きく低下することのないよう、総合診療医の育成に加え、専門医でありながらも包括的な診療を実践できる医師の育成・教育環境の充実に努めます。

（２）入院機能

市立２病院の入院機能については、病床数の適正化を図りつつ、地域全体の医療資源が最も効果的に活用されるよう配置していきます。

救急機能と手術機能を集約させる南砺市民病院には、医療資源をより多く必要とする高齢者中心の入院病床を配置し、南砺中央病院には、日常生活への復帰を支援するための入院病床を配置します。

今後、二次医療圏内での機能連携・分化がさらに深化する場合には、二次医療圏全体での協議結果を踏まえて、必要な入院機能を検討していきます。

指針_第１　市立２病院の医療機能のあり方

（３）救急機能

今後増加する高齢者救急に対応するとともに、基幹病院の後方支援を強化するため、市内で対応可能な救急搬送の受入れ先を南砺市民病院へと集約します。南砺中央病院では、平日の日中に限り、対応が可能な範囲で受入れを継続します。

（４）手術機能

症例の集約化による高齢者手術の専門性の向上と効率的な医療提供、研修環境の充実と術後管理体制の強化、二次医療圏内の基幹病院等との連携強化など後方支援病院としての手術機能を最適化するため、市立２病院の手術機能を南砺市民病院に集約し、市内で対応可能な手術は同院で実施する体制へと移行します。

（５）へき地医療の支援

へき地診療所は、医師数が少ないへき地において地域医療を支える重要な存在です。一方、へき地診療所は、医師１名、看護師１～２名の少人数で運営されており、医師が病気や出産で不在となる場合、身近な診療の場が失われるリスクを抱えています。

このことから、内科医・総合診療医を多く抱える南砺市民病院が中心となった地域診療拠点を創設し、へき地医療を含めた市域全域の地域医療を支える体制を整えます。同拠点では、遠隔診療や診療所医師の研修機会の確保などを通じ、持続可能な地域医療提供体制の構築に貢献します。

指針_第１　市立２病院の医療機能のあり方

【南砺市民病院】

1　外来機能
原則維持
地域診療拠点を設置し、**持続可能なへき地診療**や平野部において不足する訪問診療を支援

2　救急機能
南砺市立２病院の救急機能を本院へ集約し、ドクターカーの運用を含む地域の救急拠点として、消防組合・基幹病院とも連携した救急医療を提供

3　手術機能
南砺市立２病院の手術機能を本院へ集約し、高齢者手術の専門性向上と効率的な医療提供、研修環境の充実と術後管理体制の強化、基幹病院との連携強化など**後方支援病院としての手術機能を最適化**

4　入院機能
急性期から回復期にかけ、容態が変化しやすく、医療資源を比較的多く必要とする患者を受け入れる

5　役割
①　基幹病院の後方支援
②　高齢者救急・地域急性期医療の提供
③　医療従事者の育成・教育
④　へき地医療の支援

【南砺中央病院】

1　外来機能
原則維持

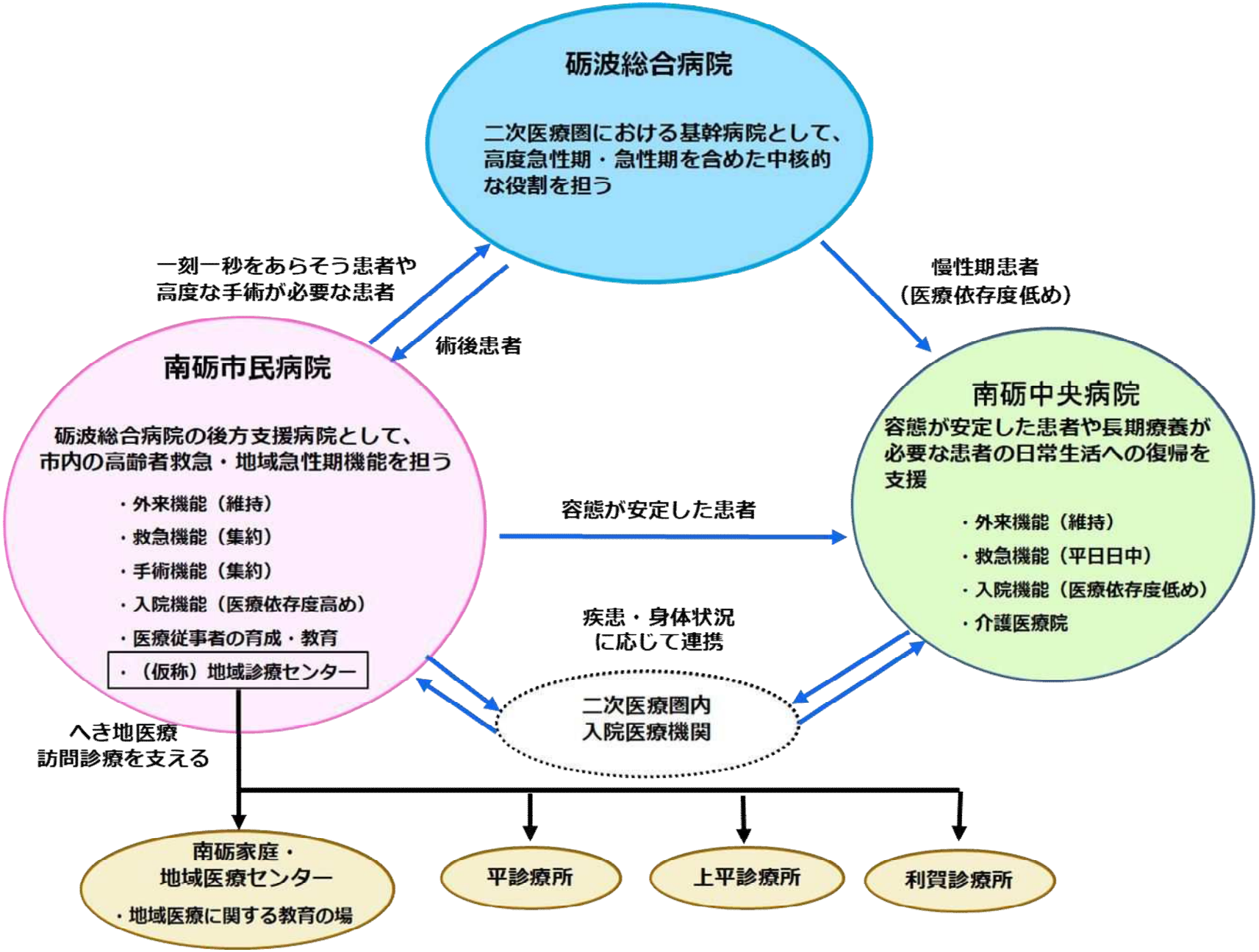
2　救急機能
南砺市民病院へ集約し、本院では、平日日中に限り対応可能な範囲での救急医療を提供

3　手術機能
南砺市民病院へ集約

4　入院機能
回復期から慢性期にかけ、容態が安定し、日常生活への復帰が必要な患者を受け入れる

5　役割
①　容態が安定した患者の日常生活への復帰を支援するリハビリ等の提供
②　医療と介護の双方が必要な療養患者の受入れ
③　へき地医療の支援

指針_第１　市立２病院の医療機能のあり方



第２　病院事業のあり方

１　病院組織の改編

南砺市立２病院については、別々の病院という概念を脱却し、１つの市立病院として一体的かつ持続可能な病院運営を行えるよう、病院組織のあり方を見直します。

【主な施策】

（１）基本構想を踏まえた病院経営の抜本的な見直しと強化

（２）へき地医療を存続するための地域診療拠点の設置

（３）病院間での医療従事者の異動・人事交流の開始

（４）一体的な職員採用試験・リクルート活動の実施

（５）医療課、南砺市立２病院事務局の統合、事務局内の組織改編

２　医療従事者の確保に向けた施策の強化

南砺市病院事業は、持続可能な地域医療提供体制を構築するため、働きがいのある職場環境の整備や専門性向上のための研修制度の充実、機能分化を踏まえた最適な医療機器の整備を通じ、医師・看護師をはじめとする医療従事者の確保及び勤務継続に努めます。また、魅力ある病院づくりを通して、医師派遣元大学との連携の強化を推進します。

３　交通アクセスの確保・利便性の向上

南砺市立２病院の再編に伴い、病院を利用する住民にとって、受診が不便とならないよう、交通アクセスの確保と利便性の向上に努めます。

【主な施策】

（１）南砺市立２病院への交通アクセス（既存の公共交通機関）の利便性の向上に関する検討

（２）南砺市立２病院間での交通アクセスの確保に関する検討

（３）基幹病院も含めた病院間での入院患者の転院・搬送手段の確保に関する検討

４　二次医療圏における関連機関との連携強化

南砺市病院事業は、二次医療圏で必要な医療が受けられる医療体制の構築に向け、区域内の基幹病院や関連病院、消防組合との円滑な医療連携・協力に努めます。

５　着実な目標達成と情報の透明性の確保

指針に掲げた目標の達成に向け、短期計画を策定し、その進捗状況等について、毎年度、市議会へ報告し、公表します。

また、病院再編に関する情報の透明性の確保に努めます。